

ジェネリック医薬品、長期収載医薬品の市場を調査

ジェネリック医薬品市場は2013年に09年比23%増の4,889億円
 (医療用医薬品市場の6.4%)

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、増大する医療費を抑制するため使用促進が図られているジェネリック医薬品(ここでは診療報酬点数表における後発医薬品に属するものを対象)の国内市場を調査した。その調査結果を報告書「2010-2011 ジェネリック医薬品・長期収載品データブック No.2 市場編」にまとめた。

この報告書では近年順調に成長を続けるジェネリック医薬品の市場を調査・分析するとともに、ジェネリック医薬品の使用を更に促進するため2010年4月に薬価の追加引き下げをされた長期収載医薬品 513成分1,472品目の市場も併せて調査・分析した。

特許が切れた先発品で、ジェネリック医薬品のある、厚生労働省が定めた医薬品。

<調査結果の概要>

医療用医薬品市場におけるジェネリック医薬品・長期収載医薬品市場

	医療用医薬品		ジェネリック医薬品			長期収載医薬品		
	09年比		09年比	構成比		09年比	構成比	
	億円	%	億円	%	%	億円	%	%
2010年見込	70,274	101.5	4,272	107.8	6.1	24,458	94.8	34.8
2013年予測	76,667	110.8	4,889	123.4	6.4	26,292	101.9	34.3

注1: 医療用医薬品にはジェネリック医薬品がない漢方製剤は含んでいない。

注2: ジェネリック医薬品、長期収載医薬品は、医療用医薬品の内数。

注3: 構成比は医療用医薬品におけるウエイト。

ジェネリック医薬品

2009年のジェネリック医薬品市場は前年比9.8%増の3,962億円となった。医療用医薬品市場における構成比は5.7%である。DPC(医療費の包括請求制度)を導入する病院が増加、薬価改定(調剤加算等)などにより今後も市場は拡大すると見られる。そのためジェネリック医薬品市場は2013年には2009年比23.4%増の4,889億円となり、医療用医薬品市場の6.4%を占めるまでに拡大すると予測される。

ジェネリック医薬品はこれまでDPC病院で注射剤のジェネリック医薬品の採用が多かったことから注射剤がメインであった。しかし、近年は大手ジェネリック医薬品メーカーを中心に、注力品目が注射剤から経口剤へとシフトしていることや、DPC病院でも経口剤の採用が増加していることから、今後は経口剤の実績も高まると見られる。現在経口剤は、生活習慣病等の患者数の多い慢性疾患に投与される循環器用剤や高脂血症治療剤、糖尿病治療剤で実績が拡大している。

2013年予測市場規模上位薬効

順位	薬効	規模
1	栄養剤・ビタミン剤・輸液・生理食塩水	508億円
2	降圧剤	460億円
3	上部消化管疾患治療剤	434億円
4	その他循環器用剤	420億円
5	がん関連用剤	370億円

長期収載医薬品

2009年の長期収載医薬品市場は2兆5,791億円となった。医療用医薬品市場における構成比は37.3%である。抗生物質、解熱消炎鎮痛剤、上部消化管疾患治療剤、痛風・高尿酸血症治療剤等の領域は、上位品目の多くが長期収載医薬品となっており、長期収載医薬品の比率が目立って高くなっている。

今後、特許切れにより長期収載医薬品の品目数は増加するが、薬価改定などにより新薬やジェネリック医薬品へシフトすると見られることから市場は横ばいで推移すると予測される。

2013年予測市場規模上位薬効

順位	薬効	規模
1	上部消化管疾患治療剤	3,064億円
2	降圧剤	2,898億円
3	解熱消炎鎮痛剤	2,580億円
4	その他循環器官用剤	2,262億円
5	高脂血症治療剤	2,115億円

<主要/注目薬効のジェネリック医薬品市場>

降圧剤のジェネリック医薬品市場

2010年見込	09年比	構成比	2013年予測	09年比	構成比
372億円	114.1%	4.1%	460億円	141.1%	4.6%

構成比は降圧剤市場におけるウエイト

降圧剤市場は、1,000億円を超えるブランドが2製品もある国内最大規模の市場である。高血圧患者が増加していることから市場は拡大推移している。

ジェネリック医薬品ではCa拮抗剤のベシル酸アムロジピンの存在感が増しているが、近年大型製品の特許切れが続いたことから市場は拡大推移している。高血圧症は慢性疾患であり服薬が長期にわたることから、ジェネリック品への切り替え需要が高まっている。

長期収載医薬品はCa拮抗剤のほか、ACE阻害剤、
・
・
遮断剤に分類される品目である。長期収載医薬品の多くは売上が減少している。

高脂血症治療剤のジェネリック医薬品市場

2010年見込	09年比	構成比	2013年予測	09年比	構成比
223億円	107.7%	6.1%	263億円	127.1%	6.6%

構成比は高脂血症治療剤市場におけるウエイト

2008年4月からメタボ健診と保健指導が義務化されたことで、新規治療患者が増加している。これにより、高脂血症治療剤市場も拡大している。

調剤薬局において後発品調剤加算等の目標達成に向けて、高脂血症治療剤がジェネリック医薬品への切換えのターゲットとなっており、ジェネリック医薬品の浸透が進んでいる。

長期収載医薬品では、「メバロチン」(第一三共)、「エパデル」(持田製薬)、「リポバス」(MSD)の上位3製品が長期収載医薬品市場の約6割を占めている。「エパデル」は、安定供給の観点から先発品が選択されるケースが多く、実績は堅調に推移している。

がん関連用剤のジェネリック医薬品市場

2010年見込	09年比	構成比	2013年予測	09年比	構成比
299億円	123.6%	4.3%	370億円	152.9%	4.4%

構成比はがん関連用剤市場におけるウエイト

がん関連用剤市場は、抗がん剤、がん疼痛治療剤、制吐剤を対象としている(CSFは除外)。高齢化による罹患リスクの高まりにより、がん患者は増加の一途を辿っている。また、抗がん剤、がん疼痛治療剤、制吐剤とも新薬が次々に発売され、薬剤の選択肢が広がっており市場が拡大している。抗がん剤では特に分子標的治療剤の新薬発売が相次いでいる。分子標的治療剤は薬価が高いことから伸びており、抗がん剤における位置付けが高まっている。

抗がん剤のジェネリック医薬品は分子標的治療剤以外で発売されており、市場は拡大している。抗がん剤のジェネリック医薬品は日本化薬の独壇場であったが、ヤクルト本社や大鵬薬品工業も参入し、実績を上げている。

長期収載医薬品は、「カソデックス」(アストラゼネカ)、「タキソール」(プリストル・マイヤーズ)の実績が高いが、他は100億円以下の実績である。

以上

<事例分析対象品目>

降圧剤、その他循環器官用剤、抗生物質、抗ウイルス剤、抗真菌剤、統合失調症治療剤、その他精神神経疾患治療剤、上部消化管疾患治療剤、他消化器官用剤、抗アレルギー剤、喘息・COPD治療剤、その他呼吸器疾患治療剤、高脂血症治療剤、糖尿病治療剤、痛風・高尿酸血症治療剤、解熱消炎鎮痛剤(外用剤含む)、抗がん剤、体内診断薬、麻酔・筋弛緩剤、女性疾患治療剤、変形性関節症治療剤・抗リウマチ剤、骨粗鬆症治療剤、消毒剤(含嗽剤含む)・褥瘡治療剤、泌尿器疾患治療剤・腎疾患治療剤、栄養剤・ビタミン剤・輸液・生理食塩水、眼科用剤、ヒト成長ホルモン剤、エリスロポエチン製剤、抗認知症剤

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献、社内データベースを併用

<調査期間>

2010年10月～2011年1月

資料タイトル : 「2010 - 2011ジェネリック医薬品・長期収載品データブック No.2 市場編」
体 裁 : A4判 328頁
価 格 : 140,000円 (税込み147,000円)
調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部
TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778
発 行 所 : 株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2 - 5 F・Kビル
TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>